

ち か い

私は、名誉にかけて、次の3条の
実行をちかいます。

1. 神(仏)と国とに誠を尽し“お
きて”を守ります。
1. いつも、他の人々を助けます。
1. からだを強くし、心をすこや
かに、徳を養います。

標 語

そ な え よ つ ね に
日 日 の 善 行



お き て

1. スカウトは 誠実である
2. スカウトは 忠節を尽す
3. スカウトは 人の力になる
4. スカウトは 友誼に厚い
5. スカウトは 礼儀正しい
6. スカウトは 親切である
7. スカウトは 従順である
8. スカウトは 快活である
9. スカウトは 質素である
10. スカウトは 勇敢である
11. スカウトは 純潔である
12. スカウトは つつしみ深い



昭和51年度地区総会

地区委員長 内 田 時 世

地区役員、団委員、リーダー諸君並に関係の皆様の日頃のスカウト活動に対する善意と熱意により、県内最高の団数を有する浜松地区に発展しました現況に、不肖私・地区の取りまとめ役の一員として敬意と感謝を申し上げます。

人夫々の顔が異なる如くその考えも夫々異なることは当然の理でありまして、同じ目的の山に登るにいたしましても、いくつかのルートが有り、リーダーを中心にして夫々の考えによりそのルートを決定するものです。スカウトの道に於ても同じ事だと思ひます。その異なった考えをいかにすれば同じ目的のための協力と理解とを求めあえるか。そのコミュニケーションの訓練と申しますか、方法を勉強する事も大切なことと存じます。勿論皆様方は既に夫々の社会的立場で立派にコミュニケーションのベテランばかりでございますので、今更とお考えになることと存じますが、その体験と実力をBS活動の組織の中に於ても是非發揮していただき、スカウトのため団・地区の組織の中で更に御協力和御援助を此の上にもいただきますことをお願いいたします。

さて、現代日本は物質的に恵まれているが精神的には貧困の極地だと云われています。心の存在は何処にいつてしまったのでしょうか。今こそスカウトの「ちかい」の第一「神(仏)と国とに誠を尽し〜」を真剣にリーダー始め関係皆さんが考える時ではありませんか。「神(仏)」をちかいの第一にのべている団

体はスカウトだけです。スカウトは大自然に接し、多くの宗教と触れ合い、そして、たくさんの人間との触れ合いの中で、人間を超えた目に見えぬものの存在を確かめるようにしむけなければならないと思います。そのためには、リーダーが「心」とは何にか、ということについて、真剣に知ろうと努力すべきではないでしょうか。それにはスカウトの一人一人が、胸を張って、「自己の信仰」をもち得るような環境づくりをすることだと思ひます。又宗教心を持たないスカウトを、いくらせつせと養成してみたところで、せいぜい、手先の器用な、マイホームを持った時に便利な日本人を増すだけのことであつて、日本人全体の精神活動には、ほとんど何の役にも立たないことを知るべきだとも云われています。B-Pがなぜ信仰心を養成することからスカウティングを始めようとしたのか。スカウトの原点に立ちもどった時に、私達はどうすればよいのかと考える時期が来ていると思ひます。自然への感謝、スカウト仲間への、先輩、後輩、両親への感謝、いたるところに宗教心は存在しているはずで、与えたもののみを消化するだけのスカウトでなく、与えられることを待っているスカウトでもなく、スカウト自らの創意工夫により、自らの心に自信と勇気の持てるスカウトを育成しなければいけないと思ひます。

新任コミッショナーの許に、感謝と奉仕を信条として、更に充実したスカウト活動へと、各団の躍進を願っております。

昭和50年度地区協議会収支決算報告書

自 昭和50年 4 月 1 日 至 昭和51年 3 月31日

日本ボーイスカウト浜松地区協議会

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異 額	科 目	予 算 額	決 算 額	差 異 額
前 期 繰 越 金	1,074,091	1,074,091	0	会 議 費	70,000	90,800	△20,800
地 区 分 担 金	345,000	350,000	5,000	印 刷 費	60,000	74,200	△14,200
委 託 金	65,000	65,000	0	事 務 費	50,000	43,215	6,785
寄 附 金	0	360,000	360,000	通 信 費	50,000	78,345	△28,345
補 助 金	0	20,000	20,000	慶 弔 費	30,000	24,430	5,570
雑 収 入	20,000	148,365	128,365	備 品 費	150,000	281,100	△131,100
				旅 費	40,000	44,717	△ 5,717
				研 修 費	425,000	371,584	53,416
				行 事 費	230,000	238,720	△ 8,720
				運 営 委 員 会 費	30,000	40,700	△10,700
				隊 長 研 究 集 会 費	50,000	22,373	27,627
				スカウト浜松援助金	100,000	100,000	0
				分 担 金	6,000	3,000	3,000
				講 習 会 費	0	30,470	△30,470
				雑 費	50,000	95,110	△45,110
				予 備 費	163,091	38,790	124,301
合 計	1,504,091	2,017,456	413,365	合 計	1,504,091	1,577,554	△73,463
				次 期 繰 越 額		439,902	

上記の通り収支決算報告をいたします。

昭和51年 4 月14日

日本ボーイスカウト浜松地区会計

伊 熊 正 治

上記収支決算監査の結果正当であることを認めます。

昭和51年 4 月14日

日本ボーイスカウト浜松地区財政委員長

金 森 武 夫

昭和 51 年 度 事 業 計 画 (案)

日本ボーイスカウト浜松地区

月別区分	地 区 関 係	ス カ ウ ト 関 係	県 連 ・ 日 連 関 係
4	緑の羽根募金 (1～20) 地区総会 (法林寺) (24)		
5	スカウト週間 (3～9) 浜松まつり駐車場奉仕 (3～5)	DC研修会 各ブロックごと DM研修会 (4月～5月中旬に実施する)	県連総会 (静岡) (1) 県大会 (朝霧) (16)
6	リーダー研修会 (中央) (5～6) BSリーダー研修会 ヨット訓練 (リーダー対象)		国際キャンプスタッフ派遣 (6月～8月) BS、GS東海ブロック指導者会議 (岐阜)
7	団委員研修会 ヨット訓練 (リーダー対象)		アメリカ建国200年記念日米スカウト 交歓派遣 (7月末～8月中旬) SS米国ヒルモント訓練派遣 (7/28～8/12)
8	無線講習会	合同キャンポリー (各ブロック別)	SSアドベンチャーキャンプ (富士グリーンキャンプ場)
9	浜松地区大会		
10	J・O・T・A	ソフトボール大会	
11			
12			
1	日の出遠拝式 (中田島海岸)		
2		B-P祭 (各団ごとに実施)	
3		班長訓練野営 (第12期) スキー訓練	
その他	各ブロックごとにリーダー研修会 (年1回) CS、BS、SS、RS別リーダー研修会 (随時) ブロック別リーダー研修 (毎月1回) 地区内各種運営委員会 (随時) 地区内コミ関係者会議 (月1回) 事務局関係者会議 (随時)		

昭和51年度地区協議会 財政予算 (案)

日本ボーイスカウト浜松地区協議会

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	収入予算額	摘 要	科 目	支出予算額	摘 要
前 期 繰 越 金	439,902		会 議 費	100,000	総会費・県連会議費等
地 区 分 担 金	718,300	スカウト1人@300×1,561人=468,300 1ヶ団当り@10,000×25団=250,000	印 刷 費	75,000	名簿・封筒等
委 託 金	65,000	浜松市教委指導者養成委託金	事 務 費	50,000	紙代等
寄 附 金	400,000	ライオンズクラブ 250,000 浜松まつり 150,000	通 信 費	100,000	切手代
雑 収 入	70,000	緑の羽根還付金 30,700 預金利子 20,000 その他 19,300	慶 弔 費	30,000	
			備 品 費	250,000	テント購入等
			旅 費	50,000	
			研 修 費	475,000	D・C研修会補助 40,000 D・M 〃 40,000 C・Sリーダー特技研修会補助20,000 C・Sリーダー研修会補助 20,000 B・S 〃 20,000 S・S 〃 20,000 班長訓練野営補助 100,000 訓練チーム図書費 20,000 団委員研修会補助 20,000 ブロック別リーダー研修補助75,000 実・研修所入所費半額補助 100,000
			行 事 費	210,000	地区大会補助 120,000 日の出遠行式 20,000 B・Sソフトボール大会補助20,000 ヨット訓練補助 10,000 無線講習会補助 20,000 J・O・T・A補助 20,000
			運 営 費	80,000	各運営委員会補助 30,000 各ブロック運営費補助 50,000
			保 管 料	60,000	ヨット保管料
			スカウト浜松援助金	100,000	
			分 担 金	3,000	青婦人会館分担金 2,000 福祉協議会分担金 1,000
			雑 費	40,000	
			予 備 費	70,202	
合 計	1,693,202		合 計	1,693,202	

但し、科目間の流用は認めることとする。

上記の通り本年度の予算を提案いたします。

昭和51年4月24日

日本ボーイスカウト浜松地区協議会

財政委員長 金 森 武 夫

昭和51年度 浜松地区協議会役員名

* () 内の数字は所属団を示す

協 議 会 長	吉沢純道(1)	
副 協 議 会 長	柳本冬彦(10)	平野富士雄(11) 林良太郎(15)
地 区 委 員 長	内田時世(4)	
地 区 副 委 員 長	内田嘉一(1)	宮沢広士(12) 市川重雄(16) 杉山友男(北1)
財 政 委 員 長	金森武夫(12)	
財 政 副 委 員 長	斉藤繁雄(11)	伊熊正治(18) 間片浩(24) 松本俊信(北4)
組 織 拡 張 委 員 長	山中将司(15)	
組 織 拡 張 副 委 員 長	吉沢正道(1)	袴田栄治(15) 野中豊治(19)
〃	山下総太郎(北3)	高須岩夫(引12) 前原敬一(三1)
指 導 者 養 成 委 員 長	斉木誠二(1)	
指 導 者 養 成 副 委 員 長	光部四郎(7)	奥沢達司(14) 新谷豊(16) 高部良平(23)
進 歩 委 員 長	中嶋圭介(12)	
進 歩 副 委 員 長	山田昌彦(6)	鈴木護(19) 横山寅彦(22) 山中洋一(可1)
野 営 行 事 委 員 長	竹村徳一(20)	
野 営 行 事 副 委 員 長	岡本一郎(1)	鈴木宗太郎(10) 川瀬愛次郎(15)
〃	木村清治(21)	松井英昭(北2)
〃	長尾静夫(14)	
健 康 安 全 委 員 長	木村敏夫(12)	阿部正昌(21) 有木高雄(三1)
〃	永田千一(細1)	
地 区 会 計	伊熊正治(18)	

地区 コミ ッ シ ョ ナ ー	牧 野 續 (4)	副コミッショナー
		中央ブロック (浜松1.6.14.15.21.22) 玉木 功一(21)
		西部ブロック (浜松4.7.11.12.19.24) 永田 連児(7)
		南部ブロック (浜松10.16.18.20.可美) 井ノ口泰三(20)
		浜北ブロック (浜北1.2.3.4.) 外山 吉保(北1)
		引佐ブロック (三ヶ日、細江、引佐) 村上 虎吉(細1)
		C S担当副コミ 後藤 守利(10)
		B S担当副コミ 八木本忠夫(19)
		S S担当副コミ 新井 信一(16)
		事 務 長 柴 田 董(1)
		事 務 次 長 中 島 繁 光(6)
		〃 鈴木 俊輔(11)
		訓練チームキャップ 原 口 芳 彦
		スカウト浜松担当 山 口 照 司
		無 線 ク ラ ブ 代 表 井ノ口泰三
		ヨットクラブ代表 内 山 圭 介



〃 栄々、 日本連盟感謝章授賞

地区名誉役員 平山 博三
浜松市長

平山浜松市長さんが今年2月15日に東京に於ける日本連盟の全国会議の席上で日連感謝章を授与されました。浜松地方にBS運動が始って間もない頃、浜松市助役として着任された早々、元城小学校々庭で地区大会を行った時、出席されて祝辞を頂いたのをキッカケとして、市長となられてからも変わりなく、地区の名誉役員として、約20年に亘って、物心両面にわたって御協力と御指導を賜りましたご功績によるものであります。その後、浜名地区、北遠地区が続々と独立して県下に於ける大きな拠点としての浜松地区の創草期から今日に至る迄の、長年に亘る御力添えに対して、今更ながらに、地区を挙げて改めてお礼を申し上げたいと思います。
(地区委員長・内田記)

隊褒彰綬

- 5年綬(2個隊)
浜松第20団CS2隊 浜松第21団CS隊
- 10年綬(4個隊)
浜松第12団SS隊 浜松第15団SS隊
浜松第16団BS2隊 浜松第18団BS1隊
- 20年綬(1個隊)
浜松第6団BS隊

特別年功章

- 5年章(18名)
井ノ口智子 浜松第1団 板倉 昭二 浜松第7団
山下 二郎 浜松第10団 鈴木 雅美 浜松第10団
小倉 浜孫 浜松第12団 望 月 馨 浜松第12団
八木本忠夫 浜松第19団 鈴木 健郎 浜松第19団
古田 栄一 浜松第20団 山下 正義 浜北第1団
布施 隆三 浜北第1団 小倉 茂嘉 浜北第1団
大須賀 進 浜北第2団 松本 智治 浜北第2団
野中不二夫 浜北第3団 高田 達二 浜北第3団
村上 虎吉 細江第1団 鴨藤 多作 細江第1団
- 10年章(2名)
鈴木 実 浜松第4団 三 室 渡 浜北第2団

静岡県連盟表彰

去る5月11日、静岡市において開かれた静岡県連盟総会にて次の皆さんが表彰されました。
おめでとうございます。

県連感謝章

- 平野富士雄 (浜松地区副協議会長)
- 奎屋 禎一 (可美第1団育成会副会長)

県連有功章

- 金子 健三 (浜松第6団々委員)
- 村松 辰次 (浜松第6団副団委員長)

昭和51年度指導者養成計画

昭和51年度静岡県連盟定型指導者養成計画 BSS・T・T				
月別	講 習 会	W・B研修所		
別ス	C・S	B・S	S・S	
51 4	清水 24. 25 少年自然の家	北遠 17. 18 天竜光明山		
5	伊東 22. 23 伊東ユースホテル	三島 22. 23 覚林院	7日 勉強会	C・Sコース22~25 沼津少年自然の家
6	磐田 5. 6 袋井海蔵寺	静岡 26. 27 青少年センター		B・Sコース17~20 朝霧野営場
7		掛川 24. 25		
8				S・Sコース26~29 袋井
9	庵原	御殿場	静岡 14. 15	B・Sコース23~26 朝霧野営場
10	富士 2. 3 丸火自然の家	志太		C・Sコース21. 24 浜松青少年の家
11	浜名 6. 7 舞阪町民センター			
12				
52 1				
2			浜松	
3				

W・B実修所・研修所履修者

●実習所

- B・S課程第34期 (那須野営場)
板倉昭二(7)

第37期 (岡山県金光町)
名倉惣一郎(15) 外山吉保(浜北1) 計3名

●研 修 所

- C・S課程静岡第10期 (沼津・少年自然の家)
岡本充雄(10) 那須田美千代(10) 座間哲郎(10)
友田元哉(可美1) 伊藤由二(可美1)
- 静岡第11期 (浜松青少年の家)
川嶋洋子(1) 高橋真理子(1) 鳥嶋桂子(7)
小出庄二(14) 計9名
- B・S課程静岡第9期 (朝霧野営場)
齊木誠二(1) 柴田董(1) 寺田和義(6)
馬場俊郎(15) 滝川卓幸(22)
- 静岡第10期 (朝霧野営場)
近藤幸秋(6) 浦上勝彦(7) 村松国雄(7)
齊藤房太郎(14) 小笠原勇(14) 水野谷三郎(14)
酒井範博(14) 米本道雄(21) 石井九一郎(21)
計14名
- S・S特修課程第2期 (那須野営場)
野口光一(4) 原口彦彦(15) 福世正志(18)
- 第3期 (那須野営場)
新井信一(16) 中島繁光(6)
- 第4期 (山中野営場)
三輪悦爾(12)
- 第5期 (山中野営場)
増田征久(1) 板倉昭二(7) 齊藤房太郎(14)
平野武(15) 計10名

●海外派遣

- 第14回世界ジャンボリー(ノールウェー)(50.7.27~50.8.31)
後藤守利(10) 高倉清雄(7) 森下健(4)
- 第4回オーストラリアシニアスカウト大会(50.12.21~51.1.9)
齊藤欽司(11) 計4名

ボーイスカウト 静岡県大会 ガールスカウト

5月16日、雨雲が周辺の山肌を静かに這い下りる朝霧高原において、日本ボーイスカウト静岡県連盟、日本ガールスカウト静岡県支部の共催による県大会が挙行された。

この日、県内各地から馳せ参じたスカウトおよび関係者・約14,000人が「つよくやさしくよい狩りしよう」のテーマのもと、バスや乗用車を連ねて、世界ジャンボリー会場跡地に続々と集った。

午前11時、スカウトの奉持する国旗群を先頭に、県連盟旗、県支部旗、それに隊旗群と代表スカウトの入場行進が見守る参加者の拍手の中を、整然と力強く行われ、折りから飛来したモーターグライダーの慶祝飛行と共に相まって、スカウト相互の親睦と友情を深め、更にスカウティングへの情熱と健全な青少年活動の躍進をめざすという本大会の目的にふさわしい幕あけであった。

次いで、ファンファーレが一段と高く鳴り響き、セレモニーマスターの開会宣言があり、ハム活動、ハイキング、アーチェリーに風揚げ等、盛り沢山のプログラムが会場内外数カ所で、殆んど同時に繰りひろげられ、どれもこれも大入り満員の盛況であった。火山灰地特有の黒い土埃により、参加者全員が顔や手足を真黒にしての大ハッスル振りは、本大会を通しての圧巻であった。

すべてのプログラムが終りに近づいた頃、それまでなんとか持ちこたえていた空模様が怪しくなり、ついに午後2時過ぎ、

時・昭和51年5月16日(日)

於・朝霧高原＝第13回世界ジャンボリー跡地



〔浜松地区スカウトの勢ぞろい〕

本格的に降り出してしまった。

閉会式は若干時間的に早くはなったが、予定通り実施され、閉会の辞に始まり、大会参加綴の授与式、大橋県コミッションのこたば、永遠のスカウト斉唱、国旗降納と、雨中の儀式ではあったが整然と行われた。

ファンファーレの余韻の中、スカウト達はいつの日かの再会と、新たなスカウティングへの熱情を誓い、頬を伝わり服を濡らす雨の中へアリーナから退場して行った。

〔浜松第23団・平松信也〕

～ 県大会に参加して～

時計の針が午前5時半をまわった。空はいまにも泣き出しそうな低い雲がたれこめていて、5月の朝とは思えない肌寒さ。電話のベルが鳴るかな！ 朝霧高原の空模様はいかにと、思いをはせながら、咲き遅れた庭のつつじの花に眼をこらす。大会中止の連絡は電話で通報があると云うので、鳴ってはいけない電話のベルの音に、神経をとがらしながら時の流れを待った。

集合地点にバスが来て、スカウト達も雲行きを気にしながら乗り込んだ。牧之原附近で3台目のBSバスと合流。全員の顔に笑が浮ぶ。駿河湾の波のむこうに伊豆の山々がうっすらと墨絵ぼかしの様につらなっている。車内にあがったとよめきに、顔を上げて見れば、雲一つない富士山が、そのぶところに我々をまねき入れるかの様に、前途にどっしりと、そびえ立っていた。

第13回世界ジャンボリーのシンボル・タワーを過ぎた。降車準備。まっ黒の土の上におり立ったスカウトの白い運動靴が、うすく汚れた。隊伍を整えて会場への道を急ぐ。全ての道はス

カウト達でうづまっている。高原の肌にしみる風に、幟がはたはたとためく。どこまでも続く隊列。色とりどりのネッカチーフが、岳麓の草の緑に映えて、富士山がひととき高く我々にせまる。

道が折れて、隊列が坂を上ると、広いアリーナが眼の中一杯に広がった。そこにはスカウト達が一面に散開している。歩いて来たスカウトの疲れが、一時に霧散したかのように、歓声を上げた。これから始まる大会への期待と、大勢のスカウトの中にいるという喜びで、それぞれのスカウトの顔が輝いて見える。県大会を一つの会場で行うという事は、開会を待たずして、既にこんなに大きな収穫がスカウト達の胸に刻まれたのだ。

大白鳥のようなモーターグライダーが音もなく頭上をかすめると、原野の緑の中を国旗群が色彩あざやかに行進する。隊旗群の波がそれに続く。ファンファーレの響を風が運び去ったあと、連盟長のお話が、山々にこだまして、スカウト達の胸をゆさぶり、血をおどらす。富士山頂までも、とどけと歌う大合唱が湧き上り、弥栄によって開会式は終わった。

おいしい空気を一緒に食べる弁当の味はまた格別。どの口も、どの口も、おにぎり満員。

カブスカウト、ブラウニーの可愛い風が、風をとらえて揚りだした。思い思いの高さで風がいそがしく動きまわっているところへ、浜松の大風が、まわりの小風を押える様にゆったりと浮かび揚った。風の下をワラビ狩り、ハイキング、ハム、オリエンテーリング、まき狩りと、それぞれのコースへ期待に胸をはづませて、足よりも軽ろやかに、喜々として向うスカウト達の後姿を見送りながら、この大会への参加の喜びをかみしめ、大会担当地区諸氏の御苦勞に心からの感謝をするのであった。

〔可美第1団・山中洋一〕



〔スカウト宣言〕

南部ブロック団委員紹介

浜松第10団

柳本 冬彦氏 昭和34年の発団当初からの育成会長で、当団の生字引的存在。

慈恵医大では山岳部キャプテンとして活躍され、海軍軍医として戦争体験もされた人。御尊父柳本満之助先生は、「城西」と号し、歌人としても高名です。二人の子息もスカウト出身。現在は、副団委員長兼任のほか、浜松地区協議会副会長。又浜松市医師会副会長として地域医療に貢献されています。(医師)

鈴木宗太郎氏 昭和46年当団第二代目の団委員長に就任以来現在は浜松地区野営行事副委員長としても活躍中。長男は、B・S・S・Rを経て大学卒業後、コーチとして各高校で剣道指南中。二女もCS隊発隊当時、副長として二年間奉仕するなどのスカウト一家の主です。「玄鶴」の号で、県書道連常任理事としても活躍中。(書道教授)

那須田 進氏 小・中学校PTA会長として、地域の教育活動にも活躍の当団のホープ。長男は本年のアメリカ建国二百年記念日本派遣団の一員に選ばれており、又四月にリーダーと結婚した長女も、CS隊副長として奉仕するなど、やはりスカウト一家です。(コンクリート製品会社社長)



後列左から 鈴木(源)、松本、相曾、江間、河合(芳)
中列 “ 中野、渥美、河合(久)、寺田
後列 “ 石津、鈴木(宗)、柳本、那須田、鈴木(正)

横井 保氏 CS隊発隊当時組長だった長男は、BS班長を経て現在受験勉強中。奥様もDMとして、当団CS隊発展の礎づくりに尽力されました。現在は、経験を生かして野営行事委員として活躍中ですが、職業柄資材の知識等には造詣が深く貴重な存在です。(建設会社社長)

石津 正氏 CS隊DDから団委員5年の経験を生かし、野営行事委員として行事や野営活動の第一線で活躍中。長男はCS隊組長・DCを経て、現在BS隊班長。奥様もDM経験者としてスカウト活動の良き理解者です。(燃糸業自営)

中野 忠良氏 DD兼団委員として二年間奉仕の後、現在CS隊組長を経てDCの長男の上進とともに、野営行事委員として活躍中。奥様もDM経験者。(造船業自営)

鈴木 源治氏 DD兼野営行事委員。長男はCS隊員。市社会教育課勤務の社会教育行政のベテラン。(地方公務員)

松本 洋氏 DD兼野営行事委員。長男はCS隊三年目で組長。奥様は、昨年DMとして活躍。(ビン回収業自営)

寺田 春雄氏 団委員歴六年。DDとしてDMの奥様とともに奉仕の経験もあり、現在は経理担当者としてのキャリアを生かし財政委員。長男はBS隊班長・DCを経て現在SS隊員。二男はCS隊次長を経てBS隊員のスカウト家庭。(電機会社勤務)

榊原 正徳氏 昨年は自宅を開放し、奥様とペアでDD・D

Mとして組集会を指導するなど、常に第一線で活躍。現在は財政委員。一人息子はCSに三年在籍。組長を経験し本年BSに上進。(信愛高校勤務)

相曾 久男氏 CS隊発隊以来のDD兼団委員。長男はCS隊組長。DCを経て現在BS班長、二男はCS隊組長、三男もCS隊員、奥様はDMと文字通りのスカウト家族です。現在は進歩委員として活躍中ですが、アイデアマンとしてテーマ委員会のリードオフマンです。(国鉄浜松工場勤務)

鈴木 正信氏 長年に亘り、団委員長を補佐し、団委員会の推進者として、その実績は高く評価されています。長男は初代DCとしてCS隊の基礎作りに参加し、現在SS隊員。浜商プラスバンドメンバーとして活躍中。(県西遠農業事務所勤務)

河合 久夫氏 長男のCS入隊とともに団委員として奉仕、昨年はDDとして、DMの奥様、DCの長男、CSの二男と全員参加のスカウト一家です。組織拡張委員として「スカウト浜松」の南部ブロック編集委員の中心メンバーとして活躍中。又浜松経済クラブ財務理事としても多忙。(電気機材会社役員)

細川 三郎氏 長男のCS入隊とともにDD兼団委員として参加。期待される新人です。(織物会社勤務)

江間 円吉氏 指導者養成委員。スポーツマンで父親ソフトボールチームのメンバー。二人の子息は、CS隊次長を経て、それぞれBS隊班長、DCとして活躍中。奥様も初代DMでスカウト活動の良き理解者であり、ますますの活躍が期待されます。(織物会社勤務)

河合 芳明氏 DD兼組織拡張委員として奉仕中。長男はCS隊組長を経て本年BSに上進。二男はCS隊次長、奥様もDM経験者のスカウトファミリー。(自動車会社勤務)

渥美 辰行氏 DD兼健康安全委員として奉仕中。CS二年目の子息とDM経験者の奥様とともに今後の活躍が期待されます。(楽器会社勤務) (SSAL 後藤記)

浜松第16団

市川 重雄氏 育成会長。ご存知静岡県議。公私に多忙を極める中でBS活動に最大のウエイトをかけてがんばっておられる。発団当時より重鎮的存在。

新谷 豊氏 団委員長。浜松市議。発団当時よりリーダーに役員にと活躍し現在に至っている。

杉本 晴夫氏 副団委員長。舞阪郵便局長。その手腕を財政委員長当時大いに発揮、現在も団になくはならない存在。

鈴木 利夫氏 財政委員長。ピアノ調律師。公私共多忙の中で団の財政を一手に引き受けがんばっている。頼りがいのある男ナノデス。



前列左より 鈴木利、渡辺、新谷、杉本、吉田、真田、伊藤、沢根、赤間、四津谷、後列左より 黒柳、鈴木繁、飯田、木本、

赤間 節代さん 財政副委員長。毎日新聞南部販売所を営
 営している和央夫人。BS一家として大いに気をはいている。海
 老塚一丁目の連絡員でもある。

黒柳 昭夫氏 組織拡張委員長 和田小教諭。団委員2年生
 当団より浜松21団のCS・BSに人気がある。

沢根 雅子さん 組織拡張副委員長。遠州浜団地に在住。か
 つては同小学校PTA会長もつとめたこともあるしっかり夫人。

伊熊 恭子さん 進歩委員長。河合楽器勤務の智司氏夫人。
 夫婦そろってきめ細やかに団の為に努力している。

鈴木 繁氏 進歩副委員長。浜松には数少ないこんにやく
 屋さん。「焼肉はままつ」(瓜内町)も経営。団のお楽しみ会
 には欠かせない存在。

四津谷好子さん 野営行事委員長。商工中金勤務の宏吉氏夫
 人。公私共多忙な中で野営行事の仕事をがっちり受け止め当団
 の為にがんばっている。

三島 悦司氏 野営行事副委員長。河合楽器勤務。夫人共々
 BS活動に大いにハッスルしている。

平尾 繁光氏 指導者養成委員長。平尾ゴム社長として多忙
 の中をBS活動に努力している。

藤原 勇氏 指導者養成副委員長。東郵便局勤務。平尾氏
 の影武者的存在として大いにがんばっている。

中島 浩二氏 健康安全委員長。中島医院々々。発団当初よ
 り同職にあり子ども達の健康診断に奉仕している。

吉田 洋子 健康安全副委員長。

真田 祥子 “ “

中野 了 海老塚1丁目連絡員

村上 吉治 “ “

高木恭一郎 海老塚2丁目連絡員

吉田 勇 “ “

清水 甫 “ “

塩谷 隆 “ “

国原 圭介 遠州浜連絡員。区外。

飯田金一郎 “ “ “

佐野 方康 “ “ “

林本 三郎 蒲地区連絡員 “

神田地区連絡員 “

名倉 義夫 駅南地区連絡員 “

◎新リーダーの紹介

木本 一夫氏 SS副長補。沖電器勤務。当団SS1期生。
 古巣に戻って後輩の指導に意欲を燃やすこととなった。

渡辺 興司氏 BS副長。南小学校隣のふで屋文房具店経
 営。多忙な中でBS講習会に参加。当団の為に努力してくれる
 ことになった。新婚ホヤホヤ。

浜松第18団

伊熊 正治氏 団委員長 18団生みの親。以来団委員長とし
 て今日まで献身的に活動されてきた団最大の功労者。その温厚
 な人柄は全町民の知るところで、これまで、自治会長をはじめ
 氏子総代会長、小中学校のPTA会長を歴任され、現在は納税
 組合長を勤める文字通り町の重鎮。奥さんも民生委員を勤める
 模範夫婦。

宇野 三雄氏 団副委員長 発団以来財政委員を48年まで勤
 め、以後円満な人柄は団長の補佐役として、まさに適任と団役
 員の信頼は厚い。子どもは女ばかりであるのにボーイ活動に専
 念されてきたので、お婿さんは団でさがそうと申し合せている

倉地 香氏 団副委員長 発団後、医薬品卸会社の経営を
 している関係上、健康安全委員を勤め、野営行事も安心して実
 施できたのもこの人のお陰と、その熱心な活動は高く評価され
 50年度からは副団委員長に就任。



後列左より 藤江、鈴木、高部、石田
 後列 “ 倉地、伊熊、宇野、久家、中村

久家封太郎氏 財政委員 昭和49年より財政委員となる。毎
 回の野営行事には出席、きめこまかい財政を受持ち信頼を得て
 いる。18団の名大蔵大臣。家庭は人もうらやむ円満家庭の標本。

石田 登氏 組織拡張委員 発団当時、団委員を勤め、本
 年カムバック。上の子どもはローバー隊で活動中、下の子ども
 はBS隊の班長で張り切りボーイ。今年は組織の拡張に意欲を
 燃やす情熱の人。

鈴木 秋男氏 指導者養成委員 42年からスカウト活動に参
 加し、8年間野営行事委員として精力的に活動し、ボーイの信
 頼は厚く慕われていたが、今年からは指導者養成委員として新
 しい部門での活躍が大きく期待されている。団にはなくてはな
 らぬ人。

中村 末子氏 健康安全委員 45年度よりスカウト活動に共
 鳴し、団委員として女性独得の明るさと、料理の腕前を發揮し
 てくれる貴重な存在。キャンプ、ハイキング行事には必ず参加
 する。18団にはなくてはならないドクターである。

高部 忠光氏 進歩委員 今年子どもさんが入隊と同時に団
 委員に就任、進歩委員として近くリーダー講習会にも参加し、
 積極的な活動をと張り切っている、18団期待のホープ。

藤江 勝己氏 野営行事委員 山育ちのためか山に行く事が
 好きで、ご子息がBSに入って2年目、現在野営行事委員にな
 り団としても、最も期待している人です。

浜松第20団



後列左より 小田木、平松、竹村(英)、紅林
 前列左より 原田、塩谷、竹村(徳)、杉山

榎 本 漸氏 育成会長 歯科医師。団創立当時の育成
 会長として20団発展のために尽力されています。医者という固
 い職業に似合わず実にくだけた人柄で、いつも柔和な顔とやさ
 しい言葉使いで、育成会員の前で話す時も、諄諄と諭すような
 話し振りで父兄の信頼を得ている。趣味という程でもないかも
 知れないが湯呑みなどの焼きものをたくさん集めている。版画
 の技術はバツグンで、年賀状は毎年必ず版画の手作りの年賀状

です。年齢はロマンスグレーの57才

塩谷 正二氏 野営行事委員 20団発足当時からずっと野営行事委員で活躍している。声の大きい事では人後に落ちない。曲った事のきらいな性格ですが、最近では年齢のせいから少し丸みがでてきた。生まれは水戸であるが浜松の航空自衛隊勤務中に結婚、浜松の人となったが昨年奥さんを亡くし、子供3人との不便な生活をしている。長男勲君は北高2年で20団のシニアスカウト。職業はモータース経営。48才。

杉山 守夫氏 財政委員 20団の中では最もスマートな体で体重42キロとか……。慌てず騒がず、誰が何を云おうとその体に似合わず我が道を行く。然し、やさしい声で早口で喋るので学校の教壇に立って話しても、生徒に通じるかどうか疑問。京都のお寺の生まれであるが、縁あって入野のお寺へ婿入り。やがては大円寺の住職。目下は磐田商業高校の教師。41才。

原田 博次氏 指導者養成委員 「金も要らなきや名譽も要らぬ、アタシやも少し背が欲しい、こんなセリフを売り物にしているタレントが居るが、彼も上に伸びる分が、横にはみ出したのかも知れない。体は太いが神経は細やかで何事にもよく気の付く人です。筆者の忘れそうだと思う事はすべてまかせておけば安心できる。昭和45年以来団委員をしているベテラン。カレーライスを食べるとジンマシンになった体質も、入団以来すっかり直ってしまったとのこと。これもボーイスカウト活動のお陰か?……43才。

小田木正三氏 野営行事委員 何事においても最後はすべてこの人にまかせておけばよい。これが20団の鉄則です。それくらい最後をキチンとする人です。それと実によく動く。野営に行っても、動いていないのは寝ている時と食事の時だけ。その為みんなから親しまれて小田木さんと呼ぶ人はなくて、正ちゃん正ちゃんと愛称で呼ばれている。45年入団以来昨年度まで健康安全委員をしていたが、今年度は自ら忙しい野営行事委員を買って出た人。毎日東海道線の列車を引っ張っている国鉄職員。彼が勤務を休むと東海道線が止まるかも……。46才。

平松 光文氏 組織拡張委員 20団の中で紳士と言えば平松さんを第一に名を上げてよい。次に続く人は全くなし。ものの腰がやわらかだが意志は固く、責任感も強い。49年から組織拡張委員として活躍中。駄ジャレの多い20団の中で、口数も少なく余分な事は喋らない真面目な人柄。宴席でも絶対乱れる事がなく、酒量は相当なものと推察する。勤務先は、先の小田木さんと同じ国鉄で、毎日東海道線の列車を引っ張っている百人力、いや万人力かも知れない。息子さん2人は20団のシニアとボーイに在籍中。44才。

鈴木 利郎氏 進歩委員 小柄な体だが、どこにそんなエネルギーがあるかと思う程仕事熱心な人。野営でも便所を掘るなど、体力の要る仕事を進んでやってくれる。若い頃、数年間自衛隊員として北海道の原野を走り廻っていた。それが今役立っているのかも知れない。雪上訓練もずいぶんやったと聞くと、その割にはスキーは……。息子さん2人は20団のボーイスカウト。勤務先はクラブ。44才。

竹村 英俊氏 健康安全委員 49年より野営行事委員をしていたが、本年度より健康安全委員となる。団内ではあまり名前を呼ばない。「保健所」で通用する。この3月まで市の保健所に勤めていたため。現在は市役所勤務。42才。筆者を最もボロクソに云う人。書く事が少な過ぎたかな。忘れていました。事務的な仕事は最高!!。

紅林 信男氏 野営行事委員 クレバヤシと読む。20団の団委員では唯ひとり30才台の青年。字を書いたり、印刷する等の技術はバツグン。さしずめ20団の印刷工場が存在。今年度からの団委員だが、実に仕事熱心とお見受けした。新しい制服が少し色あせる頃には、すばらしい団委員となってくれる事でしょう。新幹線浜松駅勤務。38才。(竹村徳一記)

竹村 徳一 団委員長 最後に自己紹介を致します。昭和44年団創設以来今日まで団委員長を務めさせて頂いております。

浜松地区の野営行事委員長という重責も同時に負っておりますが、これも団委員の皆さん方が協力して団内の仕事を分担してくれている賜です。ヘタの横好きでやっているアコーディオンですが、各種の行事・研修会等で歌唱指導を受持っており、悪声を張り上げて歌っております。この様に若い人達と接している関係か、髪だけは黒々していますが、どうも体の方が固くなって困っております。今後もスカウト運動を自分の心と体の健康法と考え、ガンバって行きます。

浜松第23団



後列左より 後藤、脇本、中野、古賀、岡田、外山
前列 “ 稲垣、横原、山本、高部(良)、高部(光)、斉藤

高部 良平氏 団委員長 教員を経て現在、火災・生命保険の代理店を自営。温厚派、幼少年団体にも経験豊富。趣味は盆栽、石。

山本 睦次氏 副団委員長 本団育成会々長であり、発足に際しての最大功労者である。地元にて名実共に長老である。織布業を自営。

後藤 和敏氏(久美子さん) 副団委員長 日楽豊岡工場長として多忙の御主人に代って、団委員会には奥さんが出席される。そのうち、日連の特別承認を得て女性副団委員長の出現を見るかも知れない。進歩担当。

脇本 英江氏 財政担当委員 180cmの長軀、男らしさのうちに優しさを秘めた美男子。鈴木自工勤務。やりくり上手。

斉藤 良宏氏 指導者養成担当委員 伊佐見小学校教員。小柄だが商売柄? 声の大きなしきも良くとおる美声の持主、団随一のハッスルマン。

岡田 四郎氏 組織拡張担当 北部中学校教員。お仕事に非常に熱心。進学指導が終って、やれやれと思ったら異動……と仲々大変です。

外山 敏晴氏 健康安全担当 志都呂町は何故か無医村なのです。そこで23団の赤ひげ兼ナイチンゲールを買って出て居ります。鈴木自工勤務。趣味は野球、庭いじり。

古賀慎一郎氏 野営行事担当 九州男児にしては珍しく色白美男子。仕事に熱心、スカウティングにも熱心な所から、野営行事担当として大いに期待。奥さんはデンマザーで活躍。スカウトファミリー。鈴木自工勤務。

中野 清一氏 野営行事担当 不言実行型、スカウティングに関しては仕事は二のつぎと言ったタイプ。その手の内を見られてしまい、あらゆる仕事には必ず引張り出されている。カワイソー、大和染工勤務。

稲垣 祐輔氏 育成会副会長 実践型、ありとあらゆる学問的分野に詳しい。地域防犯、交通安全協会の関係で忙しいと云いながらも、来客があれば必ず面会に応ずる。野鳥とカメラの神様である。農業。

横原 恒雄氏 育成会副会長 スズキ自販常務として多忙な身をさいて育成会のために頑張っている。町では一番古い家柄と人柄の良さを買われて奉仕している。

高部 光男氏 育成会副会長 団委員長の実弟。多方面に亘り知識が豊富、特にあきないに関しては教えられる事が多い。知る人ぞ知る東海道筋では華道のオーソリティーである。不言実行居士で日本タクシー専務。

可 美 第 1 団

太田 浅一氏 青少年教育には非常に熱心な方で、スカウト運動に理解あり。現在2代目育成会長である。野球、ヤマメつりには三度の飯より好きな万能スポーツタイプである。自治会連合会長もつとめる。

奎屋 慎一氏 結成時の団委員長をつとめいまは育成会副会長で、スカウト運動を理解し、現在では財政のバックボーン的存在を示し、団の為にがんばっている。

山中 洋一氏 団内全ての事に精通し、円満な人柄はスカウトを始め、リーダー、団委員より強く信頼されているかけがえない団委員長であり、財政委員長である。リーダーの少ない当団にあってはリーダーの片腕的存在を示し、隊集会、野舎営、行事には東奔西走して団を支える功労者、趣味は多芸で、時にヤマメ、8ミリ、ラジコン、風づくりは玄人はだの持ち主であり名人である。地区進歩副委員長をつとめている。コールサイン J R 2 S L R アマ無線技士

稲垣 則旺氏 当団きっての力持ち、野舎営での資材輸送、食事の作り方等、すべての面倒をみってくれる野営行事委員長であり、感謝の的である。山登り、小型船舶の運転はリーダー格で、スカウトに人気のある団委員であり、副団委員長も兼っている。コールサイン J R 2 A H Q アマ無線技士

鈴木 晴雄氏 当団きっての乗物好き、自動車、小型船舶、飛行機と陸海空の免許証を持ち運転する人は希少価値大であり、当団の誇りである。スカウトの信頼大であり、指導者さがしに奔走してくれる指導者養成委員長で、副団委員長でもある。消防団の副団長もつとめる団体指導者として活躍している。コールサイン J R 2 S L P アマ無線技士

中村 勝氏 当団きっての社交家、酒は一滴もやれないけれども宴会が皆勤という真面目な人格をもち、リーダー、団委員に信頼される組織拡張委員長である。コールサイン J R 2 S L Q アマ無線技士

鈴木 良平氏 昨年よりカブスカウト隊に子息が在籍し、進歩委員長として、今後の活躍が期待される新団委員である。

(太田記)



中村 勝
山中 洋一
鈴木 良平
鈴木 晴雄
太田 浅一
奎屋 慎一

DM. と DC. 熱心に研修

本年度のデンマザー研修会とデンチーフ研修会が、次のとおり開催されました。

カブスカウト活動におけるデンマザーとデンチーフの役割は、組のお母さん・お兄さんとしての役務のほか、前者は組活動の責任者として、後者はボーイスカウト隊からカブ隊に派遣された親善大使でもあります。

各会場とも、参加したみなさんはゲームや歌はもちろん、セレモニー・手技の実習や講義など熱心に研修されました。

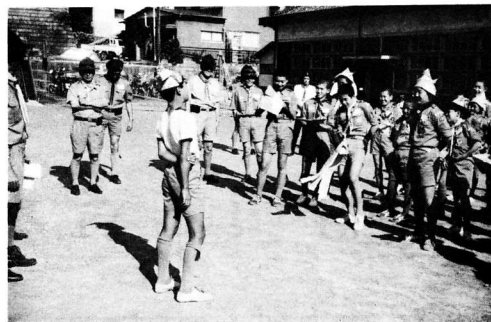
今後この研修が各隊のカブ活動に活用されて、ますますカブ活動が発展することが期待されています。

△デンマザー研修会

中央ブロック	5月9日	松江会館
西部ブロック (引佐ブロック合同)	4月29日	航空自衛隊 浜松南基地
南部ブロック	5月23日	市立入野中学校
浜北ブロック	5月30日	浜北市立 社会教育センター

△デンチーフ研修会

中央ブロック	5月23日	松江会館
西部ブロック (引佐ブロック合同)	6月6日	市立北部公民館
南部ブロック	6月6日	志都呂幼稚園
浜北ブロック	6月6日	小松八幡神社
		C S 担当コミッショナー 後藤守利



名乗り……我れこそは



カブトをかぶって隊長のお話しを……



これはこんな具合に……

盛夏 ボーイスカウト日本連盟浜松需品部 スポーツ品全般 体育器具・器材設計施工

旭スポーツ店

浜松・連尺町2 TEL 54-4301

[illegible]

可 美 第 1 団

太田 浅一氏 青少年教育には非常に熱心な方で、スカウト運動に理解あり。現在2代目育成会長である。野球、ヤマメつりには三度の飯より好きな万能スポーツタイプである。自治会連合会長もつとめる。

李屋 禎一氏 結成時の団委員長をつとめいまは育成会副会長で、スカウト運動を理解し、現在では財政のバックボーンの存在を示し「団の為にがんばっている」。

山中 洋一氏 団内全ての事に精通し、円満な人柄はスカウトを始め、リーダー、団委員より強く信頼されているかけがえない団委員長であり、財政委員長である。リーダーの少ない当団にあってはリーダーの片腕的存在を示し、隊集会、野舎営、行事には東奔西走して団を支える功労者、趣味は多芸で、時にヤマメ、8ミリ、ラジコン、風づくりは玄人はだの持ち主であり名人である。地区進歩副委員長をもつとめている。コールサイン J R 2 S L R アマ無線技士

稲垣 則旺氏 当団きっての力持ち、野舎営での資材輸送、食事の作り方等、すべての面倒をみってくれる野営行事委員長であり、感謝的である。山登り、小型船舶の運転はリーダー格で、スカウトに人気のある団委員であり、副団委員長も兼ねている。コールサイン J R 2 A H Q アマ無線技士

鈴木 晴雄氏 当団きっての乗物好き、自動車、小型船舶、飛行機と陸海空の免許証を持ち運転する人は希少価値大であり当団の誇りである。スカウトの信頼大であり、指導者さがしに奔走してくれる指導者養成委員長で、副団委員長でもある。消防団の副団長もつとめる団体指導者として活躍している。コールサイン J R 2 S L P アマ無線技士

中村 勝氏 当団きっての社交家、酒は一滴もやれないけれども宴会が皆勤という真面目な人格をもち、リーダー、団委員に信頼される組織拡張委員長である。コールサイン J R 2 S L Q アマ無線技士

鈴木 良平氏 昨年よりカブスカウト隊に子息が在籍し、進歩委員長として、今後の活躍が期待される新団委員である。

(太田記)



中村 勝
山中 洋一
鈴木 良平
鈴木 晴雄
太田 浅一
李屋 禎一

DM. と DC. 熱心に研修

本年度のデンマザー研修会とデンチーフ研修会が、次のとおり開催されました。

カブスカウト活動におけるデンマザーとデンチーフの役割は、組のお母さん・お兄さんとしての役務のほか、前者は組活動の責任者として、後者はボーイスカウト隊からカブ隊に派遣された親善大使でもあります。

各会場とも、参加したみなさんはゲームや歌はもちろん、レモニー・手技の実習や講義など熱心に研修されました。

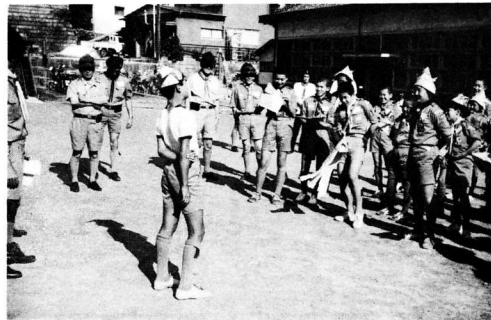
今後この研修が各隊のカブ活動に活用されて、ますますカブ活動が発展することが期待されています。

△デンマザー研修会

中央ブロック	5月9日	松江会館
西部ブロック (引佐ブロック合同)	4月29日	航空自衛隊 浜松南基地
南部ブロック	5月23日	市立入野中学校
浜北ブロック	5月30日	浜北市立 社会教育センター

△デンチーフ研修会

中央ブロック	5月23日	松江会館
西部ブロック (引佐ブロック合同)	6月6日	市立北部公民館
南部ブロック	6月6日	志都呂幼稚園
浜北ブロック	6月6日	小松八幡神社
C S 担当コミッショナー 後藤守利		



名乗り……我れこそは



カブトをかぶって隊長のお話しを……



これはこんな具合に……

盛夏 ボーイスカウト日本連盟浜松需品部 スポーツ品全般 体育器具・器材設計施工

旭 ス ポ ー ツ 店

浜松・連尺町2 TEL 54—4301

暑 中 見 舞

浜松地区副委員長 宮沢 広士	浜松地区副委員長 杉山 友男	浜松地区進歩委員長 中嶋 圭介
浜松地区野営行事 委員長 竹村 徳一	浜松地区健康安全 委員長 長尾 静夫	浜松地区財政委員長 金森 武夫
浜北第1団 監事 金原 三夫 山内 正真 坂下 慶義 平野 隆三 布田 昭三 横宮 清雄 伊藤 信雄 宮崎 勝男 伊藤 員長 委員 員長 副委員長 育成会 副会長 育成会 会長 馬瀨 奥野 石松 手小横 瀨 野東 米沢 杉山 塚杉田 要人 嘉一 吉保 二吉 芳友 清雄 一穀 嗣嘉 郎治 郎男 保弘雄	浜松第4団 R S B C 団 S S 副 S 副 S 副 委員 隊 隊 長 長 長 員 長 長 補 長 長 員 野鈴 野森 浅鈴 西牧 吉鈴 松後 山内 口木 田葉 井木 野野 井田 井藤 葉田 光 光和 美と 伸 伸 忠義 慧寅 時 一実 一明 聡世 み子 績篤 一平 男真 雄世	浜松第7団 S B C 副 副 S S S 委員 員 副 副 副 員 員 長 長 長 長 長 山村 高青 新森 酒永 岡島 菊北 森中 光伊 勝谷 泉松 倉山 田川 井田 野嶋 地川 重村 部藤 又口 邦清 市修 房一通 保久 桂計 良太 公四 綾教 久 勝男 雄郎 一雄 三兒子 子子 男雄 郎一 郎子 司雄
浜北第2団 B S C 団 隊 隊 松井 尾田 藤森 青島 長 長 井英 田直 森孝 兼 桐畑 須賀 昭寛 男 治 守進 昭寛 男 治	浜北第4団 リ 団 育 ボ ー 委 成 カ ダ 員 会 ウ ー ト 一 同	浜松第12団 団委員長 中嶋 圭介 団 委 員 一 同
浜北第3団 S S B C 健野進指組財副団会育育 S S S 康宮歩導者業政団委成成 副 副 副 全事委委委委員副會 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 村阿高村平阿大藤竹野松齊山伊大鈴中山阿平大 松部田松松部橋原内中下藤本藤城木野下部松城 幹全達幹 全弘み保二英祐 義誠郁岩太淑利 雄昭二雄茂昭子子夫夫之司功美吉夫雄郎夫八夢	浜松第15団 R S B B C 副 団 育 S S S 第2 第1 S 副 委員 成 隊 隊 長 長 長 員 會 長 長 長 長 長 長 長 平野 原口 馬場 名倉 惣 川 袴 山 林 武彦 俊郎 一 穂 瀨 愛 治 郎 榮 將 芳 積 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎	浜松第16団 S B C 団 副 団 育 S S S S 委員 員 會 隊 隊 隊 隊 員 員 長 長 長 長 長 長 長 長 新袴木矢渡山加石松市石中四黒平伊鈴杉新市 井田本部迎口藤井山川津島津柳尾熊木本谷川 信洋一正興照 義み京 浩宏昭繁智利晴 重 一一夫則司司勝章え史宏二吉夫光司夫夫豐雄

○スカウトコーナー○

昭和50年度班長(パトロール・リーダー) 訓練野営にあたり

地区委員長 内田 時世

パトロール・リーダーの諸君へ

- ①班長としての自分自身の目標を立てること。
- ②班長として自分の班員を理解すること。
- ③班長として自分の示す手本が班をすばらしいものにすること。

以上の3つを心がけて実行してほしい。

パトロール・リーダーは「やれ」という言葉より「さあ、やろう」といいなさい。

「寝ていて人をおこすな」

「先ず隼より始めよ」

という言葉があります。何にか物事をなすには自分自身より着手せよということです。訓練終了後、各自所属団に帰って班長として大いに活躍して下さい。各隊長も訓練参加スカウトの今後の活躍は隊長自身の責任にあることを忘れないでほしい。本来は隊に於て隊長がもともとパトロール・システムを完成させるべきものであるはずである。



〔一同整列〕

班長訓練野営

可美1団 鈴木 和彦

川宇連へは、きびしい訓練を予想してこわこわ来ました。ぼくは、けもの隊のためき班になりました。一番心に残っていることは、だれもがそうだと思いますが、やはり移動ハイクです。持久力には自信があるので、ひどくばてることなどはありませんでしたが、距離はとても長かったように思います。関所もたくさんありましたが、中でも結索の所が一番心に残っています。ぼくは、今まで結索に関しては、本結びなど基本しかやってなかったのですが、すじかい結びなどがうまく出来ず困りました。隊にもどってからは、もっとがんばりたいと思います。

班訓に参加して

けもの隊タヌキ班

浜松第10団 後 藤 昇

25日に出発し3泊4日の野営に参加した。はじめどのようなかわからなかった。全く知らない人たちと班になり、しかも、ぼくが初日の班長になってしまったから不安の上に不安であった。しかしみんないい人ばかりで、とてもおもしろかった。3日目のハイクは、みんなよく協力してできたと思う。

この訓練は、技だけでなく、協力することの大切さも教えてくれた。営火夜話の井ノ口隊長の話はとても印象に残っている。とてもためになった訓練だった。

班長訓練野営

浜松第20団 鶴見 和彦

この野営で一番楽しかったことは、ハイキングの途中のいろいろなことだった。途中でホームシックにかかったが、営火の炎と、班長訓練野営の歌に励まされた。就寝時間をすぎても、なかなか眠れずに次の朝眠くて困ったり、雨が降って炊事の火がつかなくて、朝ごはんが食べられないのではないかと内心ひやひやしたりした。いろいろ失敗を重ねていくうちに班長というものの任務の重大さがわかってきた。と同時に、果してぼくが班長としてこれからやっていけるのかなと不安になった。班員が、ぼくについて来てくれるかなと思うと心細くなった。

とにかく、楽しい苦しい野営だった。

班長訓練野営

浜松第18団 入山 雅樹

初めは慣れていなかったせいか、設営の時に遅くなってしまった。ふだんの野営とはちがって、時間がつまっているのが苦しかった。食事は案外うまくいったように思う。移動ハイクの時は、荷物をたくさん持っていったので苦しかった。とくに、ハバザックのひもが切れた時にはいやになってしまい、荷物を捨てていこうかとも思った。しかし、前日の隊長の話を思い出して、がんばろうと思った。課題のロープは腰かけ結びができなかったが、久留米木小学校が見えた時はうれしかった。撤営は、慣れすぎてみんなずるくなり、あまり協力的でなかったのが遅くなった。苦しかったけどためになった班訓だった。



〔楽しい営火〕

班長訓練野営

浜松第16団 此本 真久

3泊4日の班訓で、ぼくの心に一番残ったことは「だれでもやればできる」ということです。ぼくは、いつも努力をしないでいたけれど、ここで、努力の大切さを知りました。反省しなければいけない点も、たくさんあって、書くとき長くなるので書きませんが、そのことは、班長になったらなおしたいです。でも楽しかったです。そして、よい班長になりたいです。

昭和51年度 国際キャンプ スタッフ派遣 出発

去る6月28日、浜松第6団BS隊副長 寺田和義君は、国際キャンプスタッフ派遣の為アメリカ州ルイジアナ・クリントンへ出発した。

帰国後の報告を期待したい。

BSA Camp Name

Avondale Scout Reservation



寺田和義君



県大会開会式……挨拶する山本連盟長

日米スカウト交歓派遣への参加

浜松第10団・シニヤ隊 那須田 馨

アメリカ、それは雄大。島国日本で生まれ育った私にとってそこは想像を絶するところであり、魅力に満ちあふれるところでもある。

派遣が内定したばかりのころ、理想ばかりを頭の中で追いかけて回した楽しいことばかりしか考えられなかった。それがだんだんと目が進むにつれ、一種の不安へと変わっていくのだった。まったく知らない土地アメリカへ、まだ会ったこともないスカウトと乗りこんでうまくやっていくことができるだろうか。英語が得意なところがアメリカ人とうまく接することができるだろうか。

だがそんな不安も、ゴールデンウィークを利用した2泊3日の事前指導で少しやわらいだ気がする。不安が決してなくなったわけではない。いっしょに行動するスカウトたちも、みな同じように思っていたのだ。それに、班行動がほとんどである2隊では、みなに自分の役割の重さに対するの気はくがみられていた。そんな中で、ぼくだけがおろおろしてられない。

「聞き直った気分でアメリカに乗りこんでやるぞ。」そんな気分である。知らない土地での不安は大きい。しかし、そんなところであるからこそ、自分がどこまでやっていけるかがわかるのであろう。言葉が違ふ。でもそうであるからこそ心と心の会話が出来るにちがいない。よしノアメリカでは何から何までやってきてやる。何から何まで知ってきてやる。今まで知らなかった自分を見つけてきてやる。このような考えで頭がいっぱいな今、心だけは早くもアメリカに飛んでいる。

が、こんなときだからこそ、よけいに自分を冷静に見なければいけないのかもしれない。うかれていてはいけない。スカウトのちかいいきおきてをもう一度考え直し、自分の任務の重大さを心にきざみ責任をもって行動しようと今一度考える次第である。

反 省

浜松第18団・SS隊 伊 熊 敬 通

前日の嵐が嘘の様に晴れあがり、サイクリングは、決行されることになった。6月6日行なわれることに決定したのは2カ月前。スカウト全員の16名は、行くつもりで、決まったことだったが、各々の用事で、当日行けることになったのは4名。みんな高校生になり、それぞれ進んだ学校も違い、会うこともほとんどなくなったこの頃だったため、丁度よい機会だと思い楽しみにしていたので、残念だった。

コースは浜名湖一周で、昼食は、瀬戸でとることになっていた。B S 隊の時の100kmのコースに比べると、恥ずかしいほど楽なコースだが、訓練を忘れて楽しむ事を目的としていたので、短いコースを選んだのだった。都心を離れても、細江と浜松とを結ぶ姫街道は、なかなか自動車の通日も激しく、最後まで山の気分に入ることは、できなかった。

瀬戸へ着いたのは、約10時15分頃だった。予定より2時間近くも早く着いた。出発時間の1時30分までには、だいぶ時間が有るので、釣をすることにした。水は穢く汚れていたが、17匹ほど小さなカレイを釣った。回りには、空カンだらけで、ゴミ箱もほとんど無く、みんな無関心にも、通り過ぎて行ってしまう。そのうえ、そのゴミと一緒に写真を写って行く人さえいる。10年ほど前に幼稚園の遠足で来た時もこんなだったろうか。うろ覚えだが、少なくとも、きれいな湖だったという印象は残っている。まったくの予想との違いに、ガックリだった。けど、こんな批判ばかり書いている自分は、どうだったのだろう。ボーイスカウトで行ったにもかかわらず、ただの通行人と同じように、見て見ぬふりをして帰ってしまったではないか。口には出さなかったが、一緒に行った三人もまたそれ以外の人も、痛い思いをして帰っていったに違いないと思う。

カブスカウトにはいつて

浜松第10団・カブ隊 天 野 靖 史

ぼくは一年間カブスカウトになって、楽しかったこと、いやだったことがたくさんありました。一番楽しかったことは、8月にキャンプにいったときのことで、愛知県民の森へ行きました。昼間歩いてとてもつかれましたが、夜になりキャンプファイヤーをしました。そのときいろいろなげきやかえ歌などをしました。ぼくは、はじめてのことなので、いつまでも思い出します。またクリスマスも楽しかったことの一つです。苦しかったことは、キャンプに行つて、夜テントの中にはいつて、ねようとしてもなかなか寝れなかったことです。とうとう、朝までねてくれませんでした。まだまだ楽しかったこと、苦しかったことがたくさんあります。また覚えたこともたくさんあります。今年は組長になり組の人のリーダーとして、いっしょうけんめいがんばりたいと思います。

県大会に参加して

浜松第10団・カブ隊 那須田祐輔

今日はボーイスカウトの県大会で、朝ぎり高原へ行く日である。正服に着がえて、忘れ物がなにかたしかめてから、好司郎君をよびにいった。車は浜松西インターから東名高速道路に入った。

去年中田島で県大会があつて、空カンの竹馬ゲームをやったことをおぼえている。今年どんなことをやるのだろうと思った。

前の方に富士山が見えた。富士山に一度登ったことがある。と中で苦しくなったが、ちょう上についたら「やった」と思った。あれから一年たったんだなあー。

清水の港が見えた。大きな船がたくさんいた。あの船どこへ行くんだろう。

朝ぎり高原にとう着した。開会式でお話を聞いたり歌を歌った。1時間ぐらいで終わった。

おべんとうを食べた。学校の給食よりおいしかった。外で食べたからだろう。食後ハイキングにでかけた。牧場の細い道を約2時間歩いた。と中でたくさんの牛にでくわした。牛はおとなしかったけれど、もしあんな大きな牛が角をつき出して走ってきたらこわいと思った。

閉会式は雨の中で行われた。でもぼくたちは記念品を買うのでいそがしかった。自分は木ぼりのネッカリングを買った。帰り道は車がこんでいて、いらいらした。6時30分ごろ家に着いた。楽しい一日が終わった。

緑の羽根

浜松第20団・カブ隊 石 井 錠 二

ぼく達20団は、緑の羽根の協力募金に行きました。最初は、はずかしかったけれど、やっていると、だんだん楽しくなり笑いながらやる様になりました。そうしたら、わた菓子売っていたおじさんが、笑いながらやっていたやだめだぞ。と言いました。だから笑わない様に努力しましたが、どうしても笑えて

きます。緑の羽根に協力してくれた人には、いろいろな人がいました。100円を入れてくれた人、80円を入れてくれた人、お金を入れてくれても羽根をもっていかなかった人。5才ぐらいの子供まで、募金に協力してくれました。ぼくは、いろいろな人がいるなあと思いました。きっと、この大切なお金で緑がふえて、空気のきれいな楽しい浜松になるにちがいない!!。

楽しいカブの集会

浜松第20団・カブ隊 坂元 隆文

ぼくは、3年生の時カブスカウトに入団したが、父の仕事の都合でオランダに行く事になったので、すぐにやめてしまった。でも3カ月ほど前に日本に帰ってきたので又カブ隊に入り、くまスカウトになる事が出来て3組に入った。3組には、やさしい人ばかりです。ほかの組の人達もみんな仲よくしてくれて、ぼくは本当にしあわせだ。隊長に国旗の上げ方や、下げ方などをおそわった。

初めは、むずかしくて、なかなか出来なかったが、だんだん出来るようになってきた。ゲーム遊びなども、とても楽しく、おもしろいゲームをやる。みんなぼくの知らないゲームばかりだ。ぼくの好きなゲームは、輪ゴム渡しです。カブの集会のある日曜日が楽しみです。これからみんなと力を合わせて、仲よくやって行きたいと思います。そして次長らしく、組長と力を合せて、3組の為にがんばりたいと思います。



会場に向かうスカウトたち

県大会にさんかして

浜松第23団・カブ隊 鈴木元一朗

ぼくが、カブスカウトにはいつ、2年目になるけど、県大会は初めてです。それから、バスに3時間乗っていたけれど、その間も、クイズや歌を歌って、とてもたのしかったです。

スカウト行事では、オリエンテーリングをやりました。ぼくたち浜松23団からは、9人さんかしました。

ほかのたくさんの方々が一しよに、しるしの所まで行くので、すぐみつかりました。こんどもオリエンテーリングにちょうせんしたいと思います。

そして、オリエンテーリングをやってから雨がふって来たので、やっているときにふってこなくてよかったなあと思いました。

カブスカウトになって

浜松第23団・カブ隊 古賀 洋貴

ぼくは、はじめ浜名8団のカブ隊にいました。だけど、今は志都呂町に23団ができたので、そこにいます。浜名8団は、ゆうとう町なのでバスで行ったりきたりしなければなりません。でも23団は志都呂町なので、あるいて行ったりきたりできます。隊長は、平松隊長です。知らなかった人も、大ぜい友だちになりました。それにロープのむすび方や、カメラのうつ

し方、こっきのあげ方などをならいました。

この前県大会へいきました。すごく大ぜいの人が来ていました。ぼくは、はじめロープのむすび方などをしりませんでした。だけどカブ隊にはいつてならいました。カブスカウトにはいつてよかったなと思います。

朝ぎり高原 県大会

可美第1団・カブ隊 伊藤 秀明

ぼくたち可美第1団は、バスに乗った。今日は、県大会なのだ。朝霧高原まで行く事になっている。たこを上げるのだが、空を見上げて心配になった。時間がたち、やっとなつた。他のカブスカウトがいっぱいいたので、びっくりして「いっぱいいるなあ」と言った。やっとなつた。やっとなつた。やっとなつた。

開会式は30分ぐらいで終り、すぐ昼食になった。すぐ食べて父に「早くたこ上げようよ」と、せかした。ぐんぐん飛んだ。(1位だっただろう)と思った。あ組のすごく大きいたこを、ひっぱった。ひきずられそうになった。「あなたこを、ひっぱったんだ。すごいだろう」と、父に自まんした。にこにこしていると、スカウトキャップに雨がおちた。たこをおろして、すぐ帰ることになった。雨がふらなければうれしかった。

カブ隊の感想

浜松第23団・カブ隊 柳谷 武史

最初は、カブスカウトに入るのがいやだったけど、入団してみたら、だんだん楽しくなってきました。

理由は、日曜日の午前に行くと、遊べなくなるので、ちょっといやだった。そして制服を着るのがなんとなくはざかしい気がした。でも母が「武史の知らない、楽しくておもしろい事がある。そして、男の子らしく元気になってほしい」と云ってくれたから、カブスカウトに入団することに決めました。入団して見ると、楽しい事やおもしろい事がぼくを待っていました。青空の下で、大声で歌を唄う、団地のうらの方で里いもを植え、後藤さんの家の前でたけのこほりをして、うんと大きいたけのこを持って帰った。

一番楽しかった事は、県大会で、始めてオリエンテーリングに参加したこと。赤と白の箱の目標をめざして進んでいくおもしろさがわすれられません。

カブスカウトには、ぼくの初めての事が、いつも待っている。楽しいことを待っていると、胸がわくわくします。僕はカブスカウトに入って、ほんとうによかったと思いました。

組集会

浜松第23団・カブ隊長 井 建

5月16日に「ぼくらの町・今と昔」というテーマで、ぼくたち3組は、21世紀の志都呂の地図をそうぞうして書きました。組ごとにわかれて、みんなで書くことを決めました。そしてデンマザーが大きな画用紙をもって来てくれました。ふつうの画用紙の十倍位ある大きな画用紙です。ぼくはその画用紙に、動く住たくや、マンションを書きました。それはタイヤにのせて、エンジンで走ったり、空を飛んだり、部屋が分かいてきけるうちです。みんな学校や、ゆうびん局や、びょういんなどを一生けんめい書いていました。したがきをしたあとで、みんながもってきた細いふでや、太いふででじょうずにいろをぬりました。

みんなでやったので楽しく、にぎやかでした。できあがると、デンマザーが「うまくできたね」とほめてくれました。その日はとても楽しい組集会でした。

ぼくらの県大会

浜松第20団・カブ隊 斉藤 宜宏

5月16日は朝霧高原で県大会が行われた。朝からスッキリしない天候だ。ぼくは5時頃起きて母に弁当を作ってもらい、集合場所へいった。隊長の指示にしたがいバスに乗り朝霧へ直行、そうぞう以上の多ぜいのスカウトとバスに目をみはった。デン

マザーもとてもおどろいていました。しばらくして開会式が始まった。スカウト活動に力をつくして下さっている人など、えらい方々がお話をして下さった。式典が終わると、ぼく達20回はハイキングコースをえらんだ。その時、浜名8回の友達がいるのが見えたので、ぼくは「オーイ」とおもいきり呼んだ。友達も気が付いて「オーイ」といって、おたがいに、かたをくみ合った。友達って本当にいいな—と思った。行動開始!! ハイキングコースを歩いて行ったら、コースをまちがえて、逆もどりとなった時は、がっくりして足の力がぬけた様だった。でも心の中で「組長がんばれ」と自分をばげまして歩いた。帰りのバスに乗った時は、ホッとした。思いきり大声で歌をうたいながら帰った。ぼくはこの日の事は、一生わすれないだろう!!。

スズキマリーナへ行ったこと

可美第1回・カブ隊 竹 村 聡

このまえ、ぼくたちはスズキマリーナへ行った。うまくいけばボートに乗せてくれると言ったので、ぼくは、とてもきたいしていた。そうしたら、ボートを運転させてくれると言ったので、もうびっくりしてしまった。それといっしょに運転できるか、という不安がおそってきた。昼ごはんを食べて、ぶっこわれたヨットで遊んでいたら、隊長が「いまからボートに乗るが、各組の船長の言うことをよくきくこと。船長は、言うことをきかんのがいたら海の中へほうりこんでもいい。だからみんな、おとされんように気をつけろよ。とてもあぶないから」と言った。そして救めい具をつけ、船にのりこんだ。そしてスタート。目の前は海・海・海。遠くのほうに陸が見える。しばらくすると陸が消えた。船長の稲垣さんが「運転したい人、こいよ」といった。順番はどんどんすぎ、ぼくの番になった。ハンドルをきくと、船はぼくの手足のように、右へ、左へと曲がっていく。おもしろかったが、もう時間切れ。もどってから、みんなでボートを見学してから帰りました。今日、学んだことは、団体で行動するとき、自分かってな行動をしてはいけないということだと思いました。また行きたいです。



〔湖上をスイスイ……〕

カブスカウトに入って

浜松第23回・カブ隊 後 藤 高 志

ぼくは、カブスカウトに入って2年めになります。いままでが一番楽しかったことは、しゃえいに行ったことです。きょ年の夏、杉小学校へ、しゃえいに行きました。

その学校では、なま水を飲むのをきんじられていました。それは、この前その学校のある生徒が、なま水を飲んで食中毒になったからです。だから、なま水を一度お湯にしてから飲みました。近くには川があり、そこまでいって泳いだりしました。

そのほかにも、プールがあったのですが、雨のため、そのプールには入れませんでした。それから、げきなどもやりました。しゃえいは8月15日から17日まででしたが、とても楽しかったです。そのほかにも楽しかったことは、スケートに行ったこと

や、B-P祭に行ったことなどです。

今年のしゃえいが、まちどうしいです。きょ年までは、浜名8回に入っていました。今では浜松23回です。それは志都呂にもカブスカウトを作ることになったので、近いほうへうつたのです。志都呂のカブスカウトでも、がんばりたいです。

伝統あるワシ班

浜松第20回・ボーイ隊 袴 田 昌 史

この題を見てこう思った人はいないか。「伝統あるって、どこでも伝統があるじゃないか」などと……。

事実、どこの班にも伝統はあります。ここでは我らワシ班の紹介をします。

伝統のあるこのワシ班は いつでもみんな力を合わせ

一番早いご飯たき

一番早いご飯たき (作詞・原田和典)

これは去年、吉沢での野営(本当は雨で舎営になったが)のときに作ったものです。

この中に出てくる「一番早いご飯たき」は事実です。それは去年の班長の代まで続きましたが、今年ぼくの代になってからは「アッララ」になってしまったのです。

また、ゲームのときも「まあいいや」精神にのっとなって頑張っています。

こんなドジな班長です。今年あたりつぶれるかもしれません。ところが、そうはどっこい、とんやがおろさないといひうのか、他の人が頑張って班活動だけは活発です。(どうい理由か?)。だから班長が〇〇でも、なんとかもっているのです。

この班は今年一つの大きな目標と、それにつながる個人の目標をたてました。その大きな目標というのは「団結必守」といひうのです。集団で活動するためには、みんなが一致協力しなくてはだめです。そこで去年を反省し、できたことばがこれです。また、今年のぼくの活動目標は班長としての任務を円滑にすいこうし、個人の意見、特徴などを發揮させ、認めてやることです。

これが6月20日までのあゆみです。

なにかこの件について質問はございませんか。ないようですので、これで終わらせてもらいます。

ふりかえって

浜松第20回・ボーイ隊 辻 村 広 明

自分自身のスカウト生活を自分ではどのように思っているのだろうか。近ごろの自分はともスカウト活動のまじめさ、根気強さがかけていると思う。ボーイ隊にはいったばかりは学校生活のことなどわすれ、技能章あるいは進級章などをとりたい一心に辞典で調べたり親にきいてみたり、わからないところがあれば、そこをどうしても知りたくて一生懸命で取りくんだが、今ではどうだろうか。

中学2年だし、もうじきボーイもおわってしまうぞ、という考え方が強いせいか、何もやらなくなってきた。

下級の人たちが特修章進級などをしていく。自分がおいこされていってしまうという不安もあるのだが、とも最近、やってやるぜ、といういきがみがでない。

毎日毎日中学の勉強、宿題、運動でいそがしいなどといひうられえない。自分には残された土、日曜日があるではないか。と自分の心にいってきたつもりだが?。今度の日曜はがんばるぞといひういても、ずるけてまた今度があるさと思ってしまう。これでいいだろうか。班を背負っていく班長として、自分がはづかしいくらいである。

班長がしっかりしなかったら。

コブラ班が進歩しなかったら。

20回がだめになってしまったら。

などと考えるときがある。

自分のスカウト生活を充実させるために、自分からスカウト活動に参加し、全力をだして班を発展させるためがんばりたい。自分の言葉に不安はあるが、班、自分が少しでも進歩ができれば少しずつ少しずつ発展がなされていったら、ぼくはそれで満足である。くいのないスカウト生活、思い出にのこるスカウト活動を自分のものとして精いっぱいがんばりたい。

県大会に参加して

浜松第18団・BS隊・タカ班 鈴木 敏雄

ぼく達は、5月16日に富士宮の13WJのあと地へ行った。51年度静岡県大会に行ってきた。この日は、どんよりと曇っていて、はっきりしない天気だった。

いよいよ開会式が始まり、県知事も参加なさった。次は、ぼくが一番の楽しみだったスカウト行事だった。ぼくはアーチエリーをやったが、始めに簡単だと思っていたが、やってみると、とてもたいへんだ。まず準備が多いし、ウデの力もないと、マトまでとどかなかった。ほかの人は、最低一発はあたったのだが、ぼくは一発も当たらなかった。

このころは雲も少し晴れ、ときおり富士山が姿を見せていた。今度は、たこあげをした。そんなことをしている間に時間がたち、閉会式がもう始まってしまった。そして、ついに富士山も姿をかくし、今にも雨がふりそうになった。

ついに閉会式の途中に、ぼたり、ぼたりと雨がふってきた。その次に、ゴミ拾いの奉仕作業をして、バスに乗って帰った。

ちょっと、ほしい一日だったが、これから、しっかりスカウト活動をやっていきたいという気持ちになって、楽しかった今日の一日をふりかえって見ました。

誓いの式

浜松第18団・BS隊・コンドル班 植田 俊光

誓いの式の日、ぼくは始めて制服を着た。制服が大きいのか、ぼくの体がちいさいせいか、制服がブカブカだった。そしてぼくたちは、班長、次長たちと中田島海岸に向った。みんな整列の合図でならんだ。始め目的地に向かって少し歩いた。そのときは、もうすでに暗かった。そこで歌を歌った。歌い終わったあと、誓いの式の場所で、みんな円になってならんだ。ぼくは、何をやるかなあと思った。ついに始まった。一人一人名前がよばれ、ぼくもよばれた。胸がドキドキしていた。ぼくは、いつくるか、まっていた。ついにぼくに回ってきた。ぼくは、3つのちかいをいった。足がガクガクしていた。誓いの式が終わって、ぼくは、気持ちよく自転車に乗って家に向って伊熊君といっしょにつっぱした。

生きる事と努力

浜松第16団・BS隊 真田 健司

みなさん。みなさんは、人生とか、生きる事について、何か考えた事がありますか？。ぼくは、小さな体験の中に、人生という、とてつもなく大きいものを、見たような気がしたので。それは、おと年のことでした。ぼくは、ボーイスカウトに入っているのですが、そこで行われた富士登山に参加しました。始めのうちは、休憩もせずスタスタ登りました。が、速く登りすぎたせいか、しばらく登っているうちに、だんだん疲れてきました。しかし、これはどうも速く登りすぎたせいばかりではなさそうです。

みなさんは、胸突八丁ということばを知っているでしょうか？。もともとこの胸突とは、けわしい山道をさすのですが、富士山の八合目から九合目にかけては非常にけわしい、ということを表わしたことばです。

そうす。ぼくが疲れてきたのは、このせいなのです。胸突八丁……このことばの通り非常にけわしく、この辺で疲労と高山病で下山する人も少なくありません。しかし、少し進んでは一休み、また少し進んでは一休みしながらも頂上まで登りきる

人もいます。ここです。ぼくは、この苦しかった登山の体験の中で、とてつもなく大きいもの……人生を見たのです。

みなさん。おわかりでしょうか？。ぼくが、どこに人生を見たか。そうです。努力です。前進させまい、と立ちはだかる富士山を、一步一步登る努力です。それは、この登山を他のことにあてはめてみれば、わかると思います。たとえば、ある目的を決めて、その目的に達しよう、少しでも近づこう、とがんばっている。しかし、がんばっても、がんばっても、なかなか到達できないAとBがいたとします。Aが、いくらがんばっても、だめなんだ、とあきらめてしまっても、Bは必死の努力を重ね、ついには成功した。—このようなことは、この世の中に数えきれない程あるでしょう。

さて、みなさん。もうおわかりでしょう。ぼくが、どこに人生を見たか。この場合、Aが富士山の胸突八丁のあたりで苦しくなつて下山してしまう人、Bが一休み、一休みしながらも、頂上にたどりつく人です。



胸突八丁のりこえて……サア頂上までがんばるぞ！

そこでみなさん。ちょっと考えてみてください。みなさんが、今まで生きてきた中で、Aのように途中であきらめ、やめてしまったようなことはないでしょうか？。もしそのような経験は一度もない、という人があれば、その人は非常にリッチな人物といえるでしょう。いや、おそらくこの中には——先礼かもしれないですが——そういう人はいないでしょう。なぜなら、人間には限界があるからです。だがしかし、限界があるといっても、それなりにがんばってみなくてはなりません。途中で「あ、これはできそうもないから、やめよう」とあきらめ、やめてしまうのは、始めから何もしないのと同じことなのです。がんばるのです。それによつては、とてもできそうもないようなことが、万が一にも実現するかもしれません。だめだ、とわかっていても、やってみるのです。力いっぱいがんばってみるのです。そうです。これが努力です。そして、この努力がむくわれ、不可能が可能となったとき、そこに生きる事のよろこびがあるのではないのでしょうか。ぼくは、人生とは、こんなことの積み重ねではないか、そう思ったのです。

ぼくは、これから先の人生を、この富士登山で得た、人生や努力に対する考えや、ボーイスカウト活動での豊富な経験を生かし、意義のあるものとしていきたい、こう思っています。

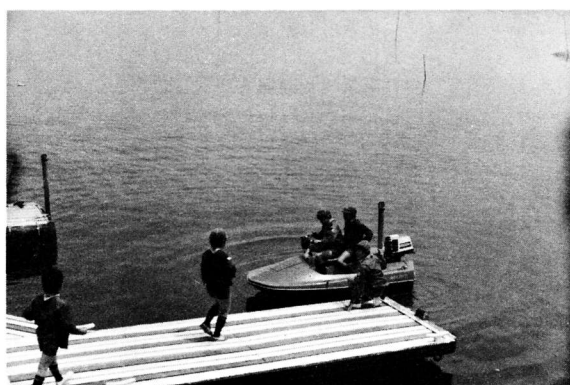
モーターボート

可美第1団・ボーイ隊 山中 慎一郎

5月2日。ぼくたち可美第1団は、浜名湖のスズキ・マリナーに行った。会館に集まり、午前9時に自動車8台で出発した。行く途中、道にまよい、少しおくれってしまった。スズキ・マリナーについた。2階に上がり、スズキ・マリナーの人の話を聞いた。ボートの乗り方や、運転のし方も少しおしえてもらった。ボートに乗る順序を決めた。ぼくたちは、スカウトの中で一番びりだった。ついにぼくたちの乗る番が来た。ぼくは、救めい

具を着け、ボートに乗りこんだ。初めは、きんちょうしていたが、だんだん慣れてきた。運転させてくれたので、途中少し運転をした。だいたいの運転のし方は、さっき教わっていたので、わかっていたが、とてもきんちょうした。ハンドルの持ち方は、マリーナの人に教えてもらったように持った。右にまがったり、左にまがったり、とてもすばしかった。つづいて島を一周回った時に、運転をほかの人にかわった。ぼくが、運転した時間が、とても短いように感じた。一番後ろの席は、風がすごくて、とても気持ちがいい。ぼくは、初めてモーターボートに乗ったのだが、こんなにおもしろいとは、おもわなかった。ボートの運転は、思ったよりむずかしくないのだな、と思った。

スズキ・マリーナに着いた。こわれているボートに乗り遊んでいた。それから、また2階に上がり昼食にした。食べてから、スズキ・マリーナの社長さんの船の話を聞いた。社長さんは前の団委員長島の島さんだったのでおどろいた。帰りは、浜名湖一周をすることにした。途中で、ほかの車とちがう道を通ったので、無線で連絡しながら無事に会館についた。きょうは、とても楽しかった。ボートに乗って、フルスピードで走った事は、いつまでも思い出として忘れないだろうと思った。



フルスピードではしるぞ！

青少年の家で

浜松第10団・ボーイ隊 後藤 尚貴

4月24日、ぼくたち浜松第10団は、浜松青少年の家へいった。ぼくは2級に進級してからのはじめての泊まりだった。行くときは、道を大回りしてしまっておもひも道をおしえてもらってやっとついた。とても暑苦しく、つかれた。

隊長の話や、かんり人の話が終わると、へやにはいって、それから自由時間。卓球台の所には、たくさん人がやっていた。

夕ごはんはカレー。とても美味しく、まずかった。その後、夜のつどい。ぼくの班はやる物はきまっていたが、なんとなくいやな感じだった。そして、ついにぼくたちの班になった。隊長が「白くま班・歌」といった。歌はなんなく歌えたが、次に来る「劇」が問題だ。ほかの班の劇を見ていると、ぼくたちの班の劇がとても心配になった。しかし、時間がなかったのか隊長は、と中でやめてしまって、ちかいの式にうつった。ぼくは「ホッ」とした。

それが終わると、ねどこにはいり、消燈。その夜は、みんなつかれたのか、ぐっすりとねた。よく日の朝は、早く起きてラジオ体操。ぼくもそうだが、みんなまだ、ねむそうな顔をしていた。朝食は、ぼくがつくる番になった。1隊はみそしるの係になり、2隊はごはん係だ。みそしるの係のだけれど、みそを多くいれすぎ、ごはん係のだけれど、火に長い時間かけたので、からからのごはんになった。中3の人は「こんなもの、まずくてたべれん」といって、どっかへ行ってしまったが、なぜつくった人が心をこめてつくったのに、食べないのだろうと思った。そ

れから、手旗やスカウトゲームをやったが、とてもおもしろく、楽しかった。2級になったの初めてののしや営は心にのこった。

静岡県大会に参加して

可美第1団・ボーイ隊 阿部 俊明

バスは一路、朝霧に向かって走っていた。東名を出て、朝霧高原へついて、バスを降りた。冷んやりした風が首すじをなぞた。身ぶるいしながら会場へと向かった。

世界ジャンボリーがおこなわれたこの地へ、ぼくが足を踏み入れたのは、これが初めてだったが、富士の雄姿のふもとで、ジャンボリーが行なわれたのが目に浮かぶような気がした。

開会式。ぼくは国旗隊に参加した。入場行進を終え、いろいろな方々のお話を聞いて、大会宣言がおこなわれていたところから、ぼくはむしうに足ががゆかった。今まであまりこのようなことをやっていなかったの、きんちょうして、からだじゅうがむずむずしたのだった。

弁当のときがきた。夢中でおにぎりに食いついているとき、どこからか、風が上がった。浜松風らしい。そうしたら、カブの子らが、競って上げ始めた。我が隊の大風もよく上がり、痛快だった。

次はハイキング。ぼくたちは「養鱒場コース」で、元気に出発した。歩いていたら、じきについた。広くて、どこでもつり堀をやっていて、うらやましかった。そして、一度家族でここへ来て、大きな虹鱒を釣りたいな、と思った。帰りは競歩で帰ったので、来る時より速かったが、大つぶの雨が降ってきた。雨具をつけ、閉会式を見ながらバスへと戻った。途中人が渋滞して、なかなかバスまで時間がかかった。

ハイキングでつかれたのか、バスの中では、みんなぐったり。雨もふっていて、白糸での休けいも、あまりおもしろくなかった。家へ帰ったのは、かなりおそかった。しかし、思い出が多かった県大会。この思い出をいつまでも心に残し、次回の県大会へも参加したい。そして、又、機会があったら、もう一度朝霧へ行ってみようと思う。

篠原1泊ハイキング

浜松第18団・ボーイ隊・コンドル班 石田 勝彦

4月24・25日とボーイスカウト浜松第18団の1泊ハイキングが行なわれた。場所は篠原海岸である。当日は曇りだったが、重い荷物をしょって、浅間神社を各班ごとに出発した。野営地までの距離は、約9.5kmである。なにしろ、当日は土曜日だったので、速めに歩いた。そのせいか半分ぐらいきつた所で、班員の顔をみると、まっかな顔をしていて、いかにも息苦しそうであった。しかし、といて、そのペースをくずさなかった。野営地につくと、他の班が、くるまで、まき拾いをしていた。そして、設営をはじめた。あいにく、ぼくたちの班は、本部から一番おくて、いろいろな荷物を運ぶのに、とても苦労した。テント張り、かまど掘り、汚物穴掘りなど、各仕事を、わりあてで行なった。そして夕食を食べたのが8時ごろだった。夕食がすみしだい海岸で営火をやった。その時は、シニアの人たちが来ていた。そして、営火がすみ、消燈前になった。その時、もと班長が来て、テントの張り方など注意された。そして消燈。

翌日の朝6時起床である。まず、すぐ水くみと、まき拾いをやった。そして朝食。ご飯、みそ汁、目玉焼きであった。だいたい見かけも味もよかった。そして朝礼を行ない、立かまどを製作した。評価は、まずぐらぐらで、全体的にかまどが高すぎた。そのため、また直して昼食に取りかかった。こんだてはチャーハンで、見かけはじょうじょうだった。味もよかった。そして撤営。これもまたひと苦労だった。この1泊ハイキングはとても疲れた。班長になって、はじめての野営であったため、失敗が多かったが、またこれも、これからの夏休みの隊野営の為に良い訓練であったと思う。まだまだ知識ぶそくではあるが、いちおう野営に自信がもてた事は非常にうれしかった。

第1回ボーイスカウト写真コンテスト

主催 「スカウト浜松」

後援 富士写真フィルム株式会社

静岡県写真材料商業組合西部支部

静岡新聞社

SBS静岡放送

—○応募規定—

○テーマ=ボーイスカウトの活動や生活をテーマにしたもの。友情交歓、奉仕活動、県大会、地区大会、ヨット訓練、キャンプ、舎営、隊集会など、昭和51年4月より9月までに写したものと

○作品サイズ=白黒又はカラー、キャビネ判（作品の裏面に応募票記載事項をお忘れなく記入又は、はること）

○応募資格=静岡県西部全域

◎スカウト関係者…浜松、湖西、浜名、北遠、磐田、袋井、掛川の各地区

◎一般の方どなたでも

○応募区分

◎スカウトの部=カブ、ボーイ、シニアの各スカウト

◎一般の部=ローバー、リーダー、団委員、父兄育成会員、その他一般の方

○応募点数=制限なし

○締切日=昭和51年9月30日

○審査=富士写真フィルム株式会社

高倉清雄（スカウト浜松）

○発表=10月中旬、静岡新聞紙上、「スカウト浜松」誌、入賞者には直接通知す

○送り先

◎スカウト関係者…浜松地区はなるべく団毎にリーダーがまとめて法林寺へ提出（9月30日のみ受付）

◎その他の地区スカウト関係者

一般の方は 〒430 浜松市松江町72

「スカウト浜松」山中将司

TEL 0534 (53) 7236

○賞

【スカウトの部】

【一般の部】

推選

1名

1名

賞状、スカウト賞（スカウト盾）〔両部とも共通〕

富士写真フィルム賞（盾）

スズキマリーナ浜名湖賞

特選

5名

5名

賞状、スカウト賞（スカウト像）

富士写真フィルム賞（スポーツバック）

スズキマリーナ浜名湖賞

入選

10名

10名

富士写真フィルム賞（レジャーセット）

佳作

20名

20名

静岡県写真材料商業組合西部支部賞（記念品）

○応募細則

◎応募作品は未発表のものに限ります

◎入賞作品はネガフィルムを提出していただきます

◎応募作品は返却いたしません

◎富士フィルム使用のこと

うごき

- 4月1日 県西部6地区指導者養成委員会打合せ会（法林寺）
 3日 地区コミ、事務長合同会議（県民会館）
 7日 班長訓練野営反省会（スタッフ、奉仕者）（法林寺）
 9日 ライオンズクラブ結成記念式典奉仕打合せ会（柴田）
 （市民会館）
 10日 地区内コミ会議（法林寺）
 13日 野営行事委員会奉仕打合せ会（法林寺）
 17～18日 BS指導者養成講習会（天竜市光明寺）
 18日 ライオンズクラブ結成20周年記念式典奉仕・各団より計32名（市民会館）
 20日 ヨットクラブ打合せ会（法林寺）
 23日 地区内コミ会議（法林寺）
 24日 昭和51年度（第22期）地区協議会総会（法林寺）
 〃 WB研修所CS課程第12期本部員会議（法林寺）
 28日 地区内コミ、訓練チーム会議（法林寺）
 29日 浜松西部小地区DM研修会（南基地）
 5月1～10日 スカウト奉仕週間始まる・各団奉仕
 3～5日 浜松祭り風揚会場駐車場整理奉仕・延219名
 7日 WB実修所第一教程勉強会（法林寺）
 9日 浜松中央小地区DM研修会（松江会館）
 16日 静岡県スカウト大会（朝霧ジャンボリー会場跡）
 18日 ヨットクラブ打合せ会議（法林寺）
 22～25日 WB研修所CS課程第12期（沼津少年自然の家）
 22日 風揚会場駐車場整理奉仕者反省会（法林寺）
 23日 浜松中央小地区DC研修会（松江会館）
 〃 浜北小地区DM研修会（浜北社教センター）
 〃 浜松南部小地区DM研修会（入野中学）
 30日 浜北小地区DC研修会（浜北社教センター）
 6月5～6日 浜松中央小地区リーダー研修野営（青少年の家広場）
 5～6日 浜松西部小地区DC研修会（北部公民館）
 〃 浜松南部小地区DC研修会（志都呂幼稚園）
 〃 〃 CS指導者養成講習会（袋井市海蔵寺）

- 12～13日 ヨット操縦研修会・各団リーダー対象（寸座マリーナ）
 17～20日 WB研修所BS課程第11期（朝霧野営場）
 21日 地区内コミ、訓練チーム会議（法林寺）
 26日 小型船舶操縦士講習会（スズキ会館）
 27日 地区内BSリーダー研修会（法林寺）
 〃 袋井地区結成記念式典（袋井中学校）

あとがき

◎浜松市長・平山博三氏にこのたび日本連盟感謝章が授与されました。おめでとうございます。

◎本号は南部ブロックの担当。次号65号は西部ブロック担当にてキャンボリー、夏のスカウト活動及び写真コンテスト入選発表等を主に10月に発行の予定です。

◎このたび浜松第11団に新しくカブ隊が出来ます。カブのお友達が又増えます。結成式は7月18日（日）遠鉄健保会館で行われます。

◎63号にてお知らせした「第1回ボーイスカウト写真コンテスト」は皆さんのご要望により、応募範囲を拡げ、県西部の各地区、東は掛川地区より西は湖西地区までのスカウト及びスカウト関係者全員と、スカウトのPRの意味で、県西部の一般人でも自由に応募出来るようにしました。締切日も延長し、9月30日とし、多くさんの作品をお送り下さるようお待ちしております。（S・Y記）

発行所

第64号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
 浜松市利町70-4 児童会館内
 編集発行責任者 山中将司
 印刷所 朝日堂印刷所
 昭和51年7月1日発行